
もう一度会いたくて...

直江 カネツグ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

もう一度会いたくて…

【Nコード】

N0347G

【作者名】

直江 カネツグ

【あらすじ】

僕は近所の高校に通う17歳の普通の高校生だ。勉強をし部活をし恋愛もした。しかし…不慮の事故で死んでしまった。そこから物語は始まる…

第一章 「別れ」

ある日の夕暮れ、部活で疲れた体にムチを打ち、家までの道のりを走っていた。

今日は、17回目の僕の誕生日だったからだ。

それに…付き合っただばかりの彼女とのデートがあった。

彼女の名前は

「ミサキ」

僕とクラスは違うが、

同じ学年で文化祭の後

告白され付き合うことになったのだ。

正直、最初は好きで付き合った訳ではなかった。

だが1ヶ月経った今、気持ちは180度 変わっていた。

けして美人とは言えないがとにかく優しい子で、僕には勿体ない位だとまで思い出してきていた。

「彼女に早く会いたい…」

そんな早る気持ちから気付けば
赤信号を渡っていた…

『ブツブツー!!』 けたたましいクラクションの音と共に体が宙に浮いた。

「ドスッ」 一瞬の出来事だった……

体がやけに軽い、宙に浮いてるのかあ……

下を見るとボロボロのブレザーの僕の周りに人だかりが出来ていた、

僕は死んでしまったのか……

僕を轢いたトラックの運転手が青ざめた顔でたたずんでいる、

「おい、キミ大丈夫か!!」

一部始終を見ていたと思われる中年の男性が、懸命に呼び掛けている。

俺の不注意で台無しになるであろう運転手の人生や周りに居る人にかけた迷惑

なにより女手一つで育ててくれた母に申し訳なかった。

僕の家は、けして裕福と言えないが

母が朝も夜も働いてくれていたお陰で　それなりの生活は出来ていた。

「母の顔が見たい……」　そう念じると　一瞬で家の中に居た
どうやら瞬間移動のようだ。

母は何も知らずテレビを見ていた……

「プルルルル……」電話がなっている、　受話器を取り母が話している。

すると、みるみる表情が変わっていく……　目に涙を浮かべている
ようだ。

病院からの電話の様だ、
僕は見ていられなかった。

「あっ！」 ミサキはどうしているのだろうか???

そう思った瞬間 ミサキとの待ち合わせ場所に居た。

「まただ…」 (瞬間移動)

死人に与えられた能力…

待ち合わせ場所にミサキはいた。

何も知らず、ただただ待っていた。

彼女の顔を見ると胸が締め付けられた、

ミサキの携帯にも電話が入った「着信音」二人一緒の同じ曲……

ミサキは電話に出る、暫く話していると

小刻みに震えている、どうやら泣いて要るみたいだ…

僕は、その場に居る事が出来なかった「ミサキにもう一度会いたい

… 会って話したい…」

そう強く思っていた。

第二章 「葬儀」(前書き)

葬儀が行われ初めて皆の大切さに気付く事になる…

第二章 「葬儀」

第二章 「葬儀」

その後： 僕の葬儀が行われた。

僕のために泣いてくれる人がこんなに居るなんて・・・
死んで初めて皆に大切にされて居たんだと気が付いた。
死んでから気付くなんて遅すぎるよな……

参列者の中にミサキの姿を見つけた、 肩を大きく揺らして泣いている。

泣きじゃくるミサキを友達の敬子がなだめていた。

「敬子」

ミサキがそんなに泣いてたら彼だって心配で天国に行けないよ・・・
笑顔で送ってあげようよ。
そう言ってる敬子も泣いていた……

「ミサキ」

うん、ありがとう。私も笑顔で送りたい、でも今日だけはきつと許
してくれるよ…… ううっ……

「敬子」

……うん。そうだよね……
うううっ……

二人はまた泣き出した。

部屋の角には、やつれてしまった母の姿があった。

いままで苦勞かけたのに最後まで迷惑かけっぱなしだったな…

母は泣きたいのをこらえ気丈に振る舞っていた。

参列者に深々と頭を下げ挨拶をしている。

参列者は続々と帰り、最後にミサキと敬子が挨拶をして帰った。

こうして葬儀は終わった。

みんな居なくなり、母は一人泣いていた……。

僕は触れる事の出来ない母を抱き締めて言った、

「母さんごめん……　　今までありがとう。」

聞こえるはずもないが、母の表情は心無しか穏やかになった様に見える。

みんなありがとう…。

ミサキありがとう…。

母さんありがとう…。

第二章　　完

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0347g/>

もう一度会いたくて...

2010年10月10日04時06分発行